



“より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体”

株式会社ビックカメラ 様

● 創立: 1978年5月 ● 住所: 東京都豊島区高田3-23-23 ● TEL: 03-3987-8785 ● URL: <http://www.biccamera.co.jp>

お客様訪問 No.40

首都圏を中心に全国35店舗を展開するビックカメラ様。本社総務本部の八須仁美様にお話を伺いました。

■ビックカメラ様の特徴を教えてください。

ビックカメラは、家電製品はもちろん、カメラ・テレビ・スマートフォンのほか、ゴルフ・自転車・寝具・お酒・メガネ・くすりなど充実の品揃えでお客様をお迎えしています。

■お客様に対して、どんな点に気を配っていらっしゃいますか？

一人一人のお客様を大切に、最高の満足と喜びを感じて頂ける様、笑顔と真心で接しています。

■トイレに関して気をつけている点や、工夫している点をお教えてください。

本社では、トイレ清掃マンニ



▲総務本部八須仁美様

アルの作成や、各店舗への清掃指導を実施しています。店舗では、常に清潔さを保てるよう、便座や床のほか、洗面台、鏡も丁寧に清掃し、お客様が快適に使って頂ける様に気をつけています。

■アメニティを導入した理由と、導入して良かった点を教えてください。

トイレ診断をしてもらい、その結果でリピートメンテナンスやリフレッシュ等の提案をして頂き

ました。定期的にトイレをメンテナンスして頂いていますので、清掃できていない箇所の発見や、トイレの消臭剤のおかげで嫌な臭いもなく、トイレを綺麗に保てています。



▲小便器と尿石防止剤ビビダリア

■最後に、担当(ショップ)に一言お願いします。

いつも綺麗にして頂きありがとうございます。アメニティの定期管理で、トイレを綺麗な状態に保てています。これからも宜しくお願い致します。



▲トイレの天井に設置されたボンボア

☆ 私が担当しています! ☆

SHOP

アメニティ本部

小林 明美(こばやし あけみ)さん

トイレ診断士 ID: 10-0111-0304

株式会社ビックカメラ様は、都市部の駅近くに店舗を展開されており、国内外を問わず、沢山のお客様が来店されています。「お客様に快適にお買い物を楽しんで頂ける様に」と、売り場はもちろん、トイレの清掃にも力を入れており、細部まで気を配られていておてもなしの心遣いを感じます。今後も、快適なトイレ環境作りのお手伝いが出来る様、頑張ります。

トイレ診断士 芸人

第4回

佐藤満春のトイレな話

I LOVE TOILET! I LOVE TOILET! I LOVE TOILET!

今後注目の教育「便育」とは何か??

シーズン2

名誉トイレ診断士佐藤満春です。

ここ数年、「食育」という言葉は一般的になったように思いますが、「便育」と言う言葉はご存知でしょうか??僕が人生を賭けて取り組んでいるテーマではあるのですが、なかなか耳慣れない言葉かもしれません。食育が「食べるための教育」「食べ物の教育」であるならば、「便育」は「便のための教育」「排泄のための教育」です。「小学生(特に男子)



が学校で大便できない」という問題がありますが、この問題にこそ「便育」が必要で

あると考えています。排便は恥ずかしい行為ではなく、食と同じくらい尊く、人間に必要な行為であると小さい頃から教えていくべきだと私は考えています。

排泄を知ることで

- 食の大切さを知ることができます。
- 自分の体を知ることができます。
- 生活を振り返ることができます。

今や子供5人に1人が便秘で悩んでいると言います。トイレに行くことがストレスになったり、我慢したりしないといけないなんて、こんな地獄はありません。排泄に対して後ろ向きな出来事(学校でからかわれたり)が起こると、その人は排泄に対して大人になってもずっとネガティブな印象を持ったまま育ってしまうのです。そのくらいデリケートな

問題だと思っています。なんとかこの悪しき文化を変えないといけません。胸を張って学校でトイレに行けるようになれば、多くの児童、生徒の学校生活は明るく変わるはずなのです。

小さいお子さんがいらっしゃる皆さん、是非一度、ご家庭でフランクに排泄について語ってあげてください。人間にとって必要な行為なのですから、タブーにせず一緒に楽しく学んでいきましょう。私は小学校の道德の時間に便育を少しでも組み込んでほしいと思っています。これは極端な提案かもしれませんが、一生関わることであるので、小さい頃に正しい情報を伝えることは非常に大切だと思うんです。少しずつ、みんなで考えていきましょう。

それではまたどこかのトイレでお会いしましょう。ジャー。

編集後記

中面では韓国のトイレについての話がありましたが、このかわや版の編集作業をしている今、実は韓国にいます。現在の韓国のトイレ事情を感じながら読んでみると、「んん?これ本当に韓国の話??」という部分もありましたが、それもそのはず、1980年代のお話でした。昔はこんなだったんだあと知ることができるのも貴重な文献ならではのですね。次号では現在の韓国のトイレの話ができるのではないかと思います。お楽しみに!(セルベッチオ中嶋)

information!

トイレ診断士達のブログと検索してください。
<http://www.toireshindan.com/>

トイレ診断の裏側やちょっと気になるトイレの豆知識まで、トイレ診断士達が日替わりでブログを更新しています。是非ご覧ください!



トイレを楽しくする新聞

かわや版

KAWAYABAN

2016 秋号 Vol.63

特集

公衆トイレのネーミングライツ 第5弾

「京都木屋町トイレ診断士の廁堂 by アメニティコスモス」オープン!

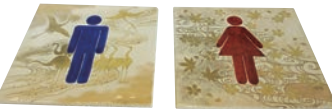
2016年7月5日、アメニティネットワークの手がける公衆トイレのネーミングライツとして、第5弾となる「京都木屋町トイレ診断士の廁堂 by アメニティコスモス」がオープンしました!

「京都木屋町トイレ診断士の廁堂 by アメニティコスモス」は、京都市東山区にあるアメニティネットワークのフランチャイズ加盟店・アメニティコスモスと、京都市が3年間のネーミングライツ契約を締結したものです。ここは京都の花街として有名な先斗町通りと平行して隣を通る、木屋町通りのほぼ中央の繁華街に位置しています。昼も夜も人通りが多く、地元の方や観光のお客様にとっても、なくてはならないトイレなのです。

京都市では、昨今の外国人観光客の増加や、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたおもてなし対策として、去年の秋から京都市内の24の公衆トイレのリニューアルを進めています。アメニティコスモスは、そのうち4つの公衆トイレのリニューアルを手掛け、この木屋町の公衆トイレ

をシンボリックな存在として、ネーミングライツを行うことになりました。

今後は定期診断管理(リピートメンテナンス)や定期的なパトロールはもちろん、SNSなどで情報発信し、市民参加型の企画を立ち上げていく予定です。京都観光の折には、是非お立ち寄りください!



▲ピクトサイン
ユニバーサルデザインのピクトサインを和模様である唐紙の柄の上に配置。それを本物の清水焼で再現(製作中)。



▲蛸薬師新京極公衆トイレ
木屋町廁堂の目と鼻の先にある「蛸薬師新京極公衆トイレ」もリニューアルを手がけた。統一感のあるデザインで相乗効果を狙う。

●トイレ診断士
アメニティコスモス
瀬古 浩史
Hiroshi Seko

●建築デザイナー
イクリカ建築デザイン
井上 都光
Kunimitsu Inoue

京都木屋町トイレ診断士の廁堂のリニューアルにあたっては、外国人観光客も含め、様々な方が使う公衆トイレということで、京都市の方からは、『ユニバーサルデザイン(UD)』と『京都らしさ』という両面を求められました。そこで、京町家建築のデザインを得意とする建築デザイナーの井上都光氏に協力を依頼。厳しい条件下での使用に耐える公衆トイレとしての『機能性』や『メンテナンス性』は保ちつつ、いかに『京都らしさ』が演出できるのか。トイレ診断の匠と建築デザインの匠のコラボレーションにより、新たなトイレが完成しました。

京都木屋町トイレ診断士の廁堂

▲以前は酔っ払いやホームレスが座り込むのを防止するために、コンクリートの傾斜があった。それを隠すように京都の町屋に見られる犬矢来(いぬやらい)風の構造物を設置。

飯尾 奈々絵さん

▲天然木の一枚板の看板の文字は、書道家を目指す飯尾奈々絵さんによるもの。大学時代を過ごした京都は思い入れが深く、製作を快諾していただきました。

文献に学ぶ「トイレ文化」



このコーナーでは、「トイレ文化」に注目し、トイレに関する興味深い文献をご紹介します。

第21回

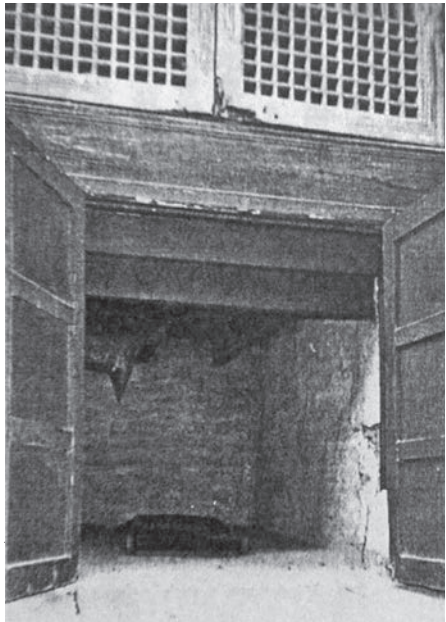
トイレ学大辞典

絵解き世界のおもしろトイレ事情

韓国

首都ソウルの中心に残る「昌徳宮」は、元来15世紀の中頃に建立されたが、度重なる災害に見舞われて、現在見物できるのは1920年に再建されたものだそう。とにかく朱や緑色が鮮やかで、いかにも韓国らしい建造物といえる。

この宮殿の一角に、皇帝が用いたドア付きのトイレがあり、その室内中央の台座の上に、ポツンと「ヨガン（おまる）」が鎮座している。



▲図1 皇帝のトイレ。台座の上にポツンとヨガンが鎮座している。坂本菜子氏・TOTOより

オリンピックを迎えてトイレ改造

1986年にさかのぼるが、韓国はアジア大会を目前にひかえ、「先進国になろう」と、国を挙げてのイメージアップ作

戦が展開された。国家強権を発動し、飲食店は客室から台所が見える方が衛生的だと、35,000ヶ所の調理場をオープン形式に切り替え、トイレはなんと51,200ヶ所。さらに洗面台を置き、石鹸・タオル・紙などを備えさせたのである。ソウル市内では特に公衆トイレを「糞尿分離式」に大々的に改良させた。糞尿分離式というのは、要するに大便器の穴の下に斜めに網を張って、穴の真下の箱には尿が落下し、固形物は網の上をコロコロころがって別の箱に納まる仕組み。拭いた紙は別の籠に投げ入れて、焼却場に持ち去るのである。

なお、一般にドアは付いているが、トイレに人がいるかないか確かめる際に、トントンとノックする習慣はない。「ウン」と咳ばらいし、中の人も「ウン」と咳ばらいするのが韓国のしきたりとか。次は、ソウルの南方にある「民俗村」に行こう。ここでは普通の韓国人の生活がよく分かり、実に有難い有益な観光教育施設といえよう。ここに19世紀後半の農村トイレが復元されている。要するに、農家の土間に竪穴を掘り、その上に排泄用の穴をもうけた板を敷いただけ。傍らにはトイレトペーパー代わりに藁の束を置いてあるのが、大変に懐かしい。日本でも昔、田舎に行くと、竹筒に長さ30センチほどに切った藁が入れてあった。

そして、韓国の寒い冬などは、寝室内に「ヨガン（おまる）」を持ち込んでいたらしい。陶製、真鍮製、近年はステ



▲図2 19世紀後半の農村トイレの復元。ソウル南方の「民俗村」にて

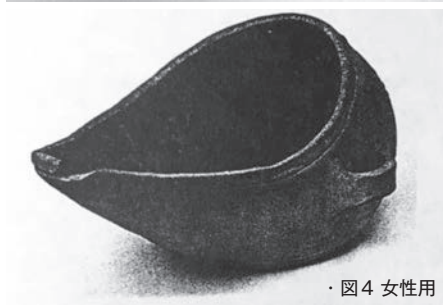
ンレス製も見られる。

わたしは韓国の国立扶余博物館も見学したが、館内に軍守里という所で採集された「虎子（日本でいうおまる）」が陳列してあった。写真のように下が女性用（長さ36センチ）、上が男性用で、名前の通りトラの子のような形をしている。時代は6世紀ごろ、百済の工人たちが用途に応じて工夫した苦心の作といえよう。

朝鮮半島の南にある、韓国のハワイと俗称される済州島を訪れると、耽羅木石苑という所で、熔岩を積み重ねた独得の建築様式の庭園があり、そ

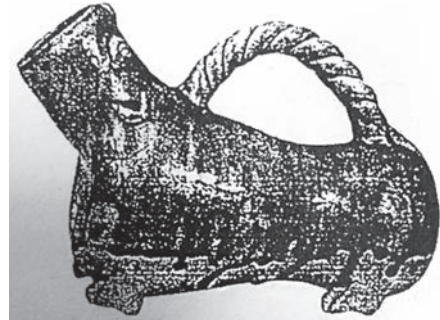


・図3 男性用

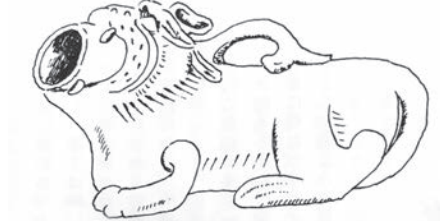


・図4 女性用

の境内には「憂いを解く所（ヘウソ）」と書いた公衆トイレの表示があり、印象的であった。すなわち排泄と共に憂いをすて、すっきり、さっぱりさせるという意味が籠もっているのだ。男性用は、土器を斜めに切ったような美にシンプルな施設であった。



▲図5 青磁・虎子 西晋 3C後半（浙江省博物館蔵）考古学ジャーナル 1998年1月 江坂輝弥氏より



▲図6 獣形容器 6世紀後半 30.2cm ニューヨークメトロポリタン美術館目録



古代の人も、高貴な方々はこのような便器を使用していたらしく、やっぱり必然的容器だったのでしょう

▲図7 平瓶（ひらか）レプリカ奈良市平城京内裏井戸出土

シンガポール

アジアにこんな清潔な国があったのかいな、と驚くほどシンガポールは素晴らしい努力を続けている。国土は緑におおわれ、街路にはゴミも、煙草の吸いながらも、チューインガムの噛み滓も落ちていない。但し、街路の一定距離にあるタテ型灰皿はいつもこぼれんばかりの吸いがらの山で、かえってこち

らの方が気になる次第。歩行中は禁煙だから、灰皿を見るとつい吸いたくなってしまうのではないか、と思える位だ。観光客は、免税店に入ればまず一服、出るときに一服。歩いていて灰皿を見ると二服。レストランに入る前に二服。大急ぎで食事をして出口で一服。ホテルのロビーで一服。部屋に帰ればモウモウの煙を満喫といった具合で、本国にいる時より喫煙の量も増えているように見える。

こうなった原因は、徹底した罰金政策をとっているからで、路上にポイ捨て、或いはツバを吐いたら、最高500ドル、約4万円に近い罰金。子供たちは所定以外のところで煙草に火を付けた観光客を見ると、吸いがらをポイするのを今か今かと待っていて、巡査に密告するというから油断できない。立ちションなど、以ってのほかの出来事となる。

土地の狭いシンガポールでは、国民の80パーセントがマンション住まいで、しかも20階から30階建ての高層アパートが多い。その割にはトイレが少ない。

そのせいか、エレベーターの中で小便をする者があとを絶たなかった。そこで捕まると800ドルの罰金。実際、現地では顔写真入りで新聞記事になっ



【出典】 絵解き世界のおもしろトイレ事情 (39頁から46頁より転載)
発行所：日地出版
著者：西岡秀雄
発行：平成10年10月

た例もある。悪質なケースには禁固刑が課せられ、公衆トイレに入ったあと、うっかり水を流し忘れたのが見付かると、最高1,000ドルの罰金なのでご用心。こんな次第で、次のページの1991年5月の現地の新聞「星島日報」にも大きく報道されたように、日本トイレ協会のメンバー来遊を機に、公共トイレに関する専門家たちのアドバイスを参考にして、その改革運動に真剣に取り組み始めている。

1994年には香港で「アジア太平洋トイレセミナー」が開かれて2ヶ国が参加。アジアのトイレ問題について語り合い、続いて1995年にも同じく香港で開催。その取組みにも年々熱が加わり、年間、日本人だけでも百万人の観光客が入るシンガポールは、香港に遅れじと、トイレの国際化にはげんでいる。



▲図8 シンガポール「星島日報」のトイレに関する記事